



常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

日本サッカー協会では、2005年1月1日に、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、『JFA2005年宣言』を行いました。その中で2050年までには日本でのFIFAワールドカップの開催と優勝という明確な目標『JFAの約束2050』を掲げました。また、その目標に向けて2030年までに達成すべき新たな目標として、2030年にはサッカーファミリーが800万人に、FIFAワールドカップに出場し続けてベスト4に、これらを達成するために世界でトップ3の組織になるという『JFAの目標2030』を設定しました。

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。「エリート」という言葉は日本の中では抵抗感が強く、根付いて来なかった概念であり、誤解を招きやすい面がありますが、本来の意味を重視し、敢えて使用しています。本来、「エリート」とは特権階級を指すものではなく、社会の各分野でのリーダーであり、むしろ先頭に立って闘いに行く存在、社会に対する責任を果たす存在を指すものなのです。

私たちはサッカー界で、真の意味でのエリートとなる人材を育てたいと思っています。それがサッカーの場面でも必要とされる判断力やリーダーシップの向上に大いにプラスになると考えていますし、また、サッカー界あるいはそれを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。リーダー不在、判断力不足は、現代の日本社会の大きな社会問題であるとも言えます。

サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発育発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代の特徴に最適な環境・指導を与えることが重要です。子どもは小さな大人ではなく、年齢に比例して一直線に成長していくわけでもありません。それぞれの年代にやるべきことをやって最終的な成長へと導いていくことが重要です。これは日本サッカー協会の育成の非常に大きなテーマです。

JFAアカデミーでは「世界トップ10を目指した個の育成」「世界基準を日常に」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。ロジック形式による中高一貫教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成しています。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会をリードしていける真の世界基準の人材、JFAのフィロソフィーでもある、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。「世界基準」で日本をリードし、サッカーのみならず、広くスポーツ界、社会全体に発信できる、トータルなリーダーシップをそなえた人材の育成を目指しています。

世界のなでしこになる



この5つの言葉の真の意味を自分の言葉で言える「自立した個人」を育成します。

## なでして vision

「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、  
そして、女子サッカーを文化にするために、  
「世界のなでしてになる。」というビジョンのもと、  
日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを女性の身近なスポーツにする。
2. なでしてジャパンが世界のトップクラスであり続ける。
3. 世界基準の「個」を育成する。



## 目的

### 「世界基準の個を育成する」

「世界基準」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。

ロジング形式による教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成します。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会を

リードしていける真の世界基準の人材、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。

才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。

## 指導・サポート

### (1) サッカーの面に関して

能力の高い選手に、良い環境で集中的に良い指導を与え、個の能力を高めます。寄宿生活の中で、最高のトレーニング環境を与えます。試合も重要な機会であり、公式試合活動に関しては、アカデミーではなく個々にチームに所属し、週末にはそのチームで試合の経験を積みます。

トレーニングは、J-GREEN 堺（堺市ナショナルトレーニングセンター）の施設を利用して行います。

### (2) サポート、環境面に関して

日本サッカー協会技術委員会、女子委員会、スポーツ医学委員会等と協同し、メディカル、栄養、フィジカル等のサポート体制にて、

より良い成長を促していきます。中学生年代は心理的に不安定な時期にあたりますが、適切なサポートや刺激を与えることでドロップアウトを防ぐよう、対応を行います。

### (3) 学校以外の教育面に関して：JFAプログラム

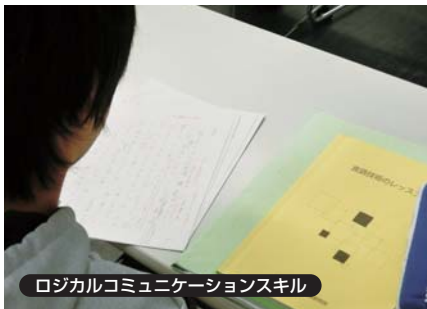
サッカーばかりではなく、人間的な教育や論理的思考、ロジカルコミュニケーションスキル、外国語等の総合的教育を行い、リーダー教育を重視します。

真のエリートとして社会をリードしうる人材を育成するため、JFAプログラムとして学校のカリキュラムとは別に、寮生活の中でさまざまなプログラムや日常的な働きかけを行います。

- ▶ロジカルコミュニケーションスキル ▶英会話
- ▶大会運営補助 ▶栄養セミナー ▶地域行事参加 等



海外遠征



ロジカルコミュニケーションスキル



英会話

## 活動

### (1) 生活に関して：ロジング（寄宿制）+週末帰省

J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]に寄宿し、サッカーのトレーニングや総合的教育を行います。最適な日課の中で、トレーニングや食事、休養、必要な学習を実施することで、効果的な育成を行います。週末は自宅に帰省します。毎週末無理なく帰宅できる範囲からの子どもを対象としています。



- J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]の施設の一部を、JFAアカデミー堺の寮として占用利用します。
- 寮は、共同生活の場として、コミュニケーション、交流、教育、学習、教養を行う場として捉えています。
- 家族（家庭）が特に必要な年代に親元を離れることとなりますが、毎週末帰宅し家庭生活に戻ることにしています。
- ウィークデーをはじめとした生活全体の問題に関しては、学校とも連携を図りながらサポートを行います。アカデミースタッフ、学校、地域で協力しながら十分なケアをすると共に、保護者との連絡を密に取り合い協同しながら、選手一人ひとりにアプローチします。
- 病気や怪我等が生じた場合は、アカデミーメディカルスタッフが中心となり、地元医療機関及びスポーツ医学委員会との連携により、十分な医療体制をとります。
- 夜間もアカデミースタッフが寮に同宿し、寄宿生活に関して責任を持って対応します。





## (2) 学校に関して

居住地の学区にある公立中学校・堺市立月州中学校に通学し、学校生活を送ります。サッカーのプログラムばかりでなく、中学生にふさわしい学校生活・社会生活を大いに重視しながら、勉強面での指導も十分に行います。

## (3) チーム活動に関して

JFAアカデミー堺では、個の能力を高めるためのトレーニングを徹底して行いますが、チーム登録をし、そのチームとしての公式試合活動は行いません(但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームを行うことはあります)。各自が個々にチームに所属

し、毎週末(帰宅時)にはそのチームでトレーニングや試合等の活動を行います。

## (4) 社会生活に関して

親元を離れて寄宿生活を行い、地元(堺市)の公立校に通うという生活を送るに当たり、サッカーの仲間ばかりのサッカーの生活のみにすることは、この年代の子ども達にあるべき姿ではないと考えます。

学校での様々な活動はもちろん、地元(堺市)、堺市教育委員会や一般社団法人大阪府サッカー協会等と協力しながら、地元や社会との交流を重視していきます。

## 堺市及び大阪府サッカー協会の協力

堺市が2010年4月に「堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(愛称：J-GREEN堺)」を開設し、同施設がスポーツ交流の拠点としての機能を更に強化するため、利便性向上等の観点から、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会が連携し、同施設内に於いて宿泊施設の整備を進め、2012年4月に「DREAM CAMP」がオープンしました。JFAアカデミー堺はその一部を寮として占用利用します。

JFAが「JFA2005年宣言」で示した理念やビジョンのもと、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会がこれらに賛同し、継続的に協力・連携していくことから、JFAアカデミー堺の開校に至りました。

JFAアカデミー堺が、これからの日本を代表するエリートを育成する機関としてだけでなく、更には堺市が策定している「堺市マスタープラン」で示されている「未来を拓く人材をはぐくむ教育環境の充実」を実践する場としても、推進していくことが重要です。



## 費用

アカデミーの活動には、入校手続金(初年度のみ)と毎月の活動費が掛かります。

### [活動費に含まれる費用](抜粋)

- ・住居費、食費、水道光熱費 ・トレーニング用品
- ・傷害保険費用 ・JFAプログラムに係る費用
- ・アカデミー事業/活動に係る経費 等

### [活動費に含まれない費用](例)

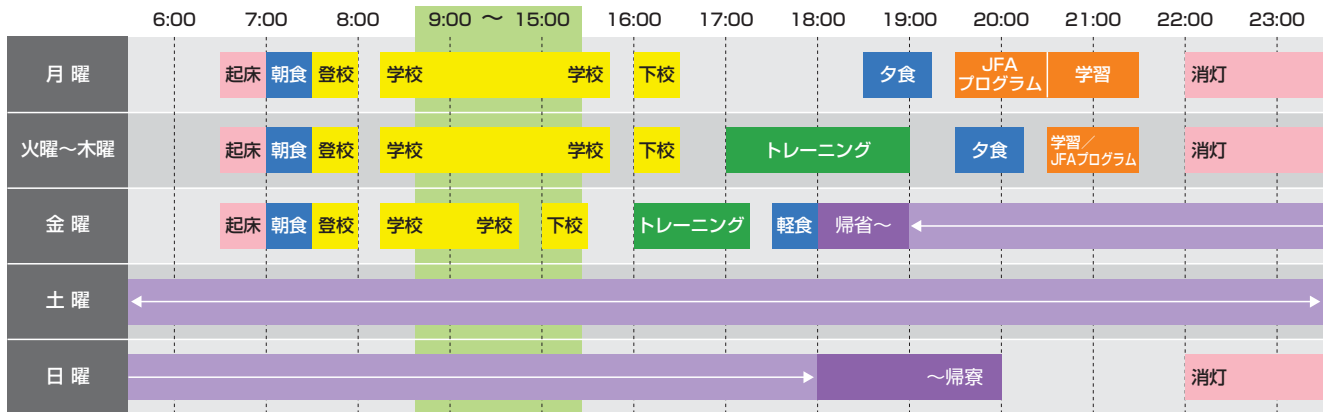
- ・中学校に係る費用(制服、学用品、給食費、教材費等)
- ・帰省(帰宅)に係る費用 ・登録するチームに係る費用 等

### ※活動費の減免に関して

アカデミー在校生の家庭の経済状況や事情の変化により、アカデミーに支払う活動費に対する減免を行う場合があります。

費目	納入期	初年度	2年目以降
入校手続金		150,000円 (分納/1月&3月)	
活動費(住居費、食費・水道光熱費等)		月額80,000円	月額80,000円
合計(年間)		1,110,000円	960,000円

## スケジュール



○月曜日から金曜日は地元の公立中学校（堺市立月州中学校）に通い、下校後J-GREEN堺のピッチでトレーニングを行います。  
 ○金曜日（又は祝日の前日）のトレーニング終了後に帰省（帰宅）し、週末は所属チームでの活動や家庭での生活を送ります。  
 ○日曜日の夜（18時～20時）に、アカデミーに帰寮します。

## スタッフ体制 (2016年4月末現在)



スクールマスター  
**赤須 陽太郎**  
 一般社団法人 大阪府サッカー協会  
 会長



JFAアカデミー女子統括ダイレクター  
**大野 真**  
 JFAナショナルトレセンコーチ  
 [女子担当] チーフ



チーフコーチ  
**加藤 賢二**  
 JFAナショナルトレセンコーチ  
 サブチーフ



コーチ  
**高須 理稔**  
 JFAナショナルトレセンコーチ  
 [関西担当] チーフ



コーチ  
**三輪 由衣**



GKコーチ  
**櫛引 実**



アスレティックトレーナー  
**中堀 千香子**



スクールアドバイザー  
**金坂 正廣**

## 在校生の所属チーム (2016年4月末現在)

選手は毎週末や長期休暇には自宅へ帰省、自宅近くのチームに所属（登録）し、週末や帰省時にはそのチームでトレーニングや試合などの活動を行います。

- [愛知県] ▶ FC. フェルボール.MIMOSA  
 ▶ NGU名古屋FCレディースユース  
 ▶ 緑フットボールクラブ
- [岐阜県] ▶ 若鮎長良フットボールクラブ  
 ▶ 岐阜女子FC フェニックス
- [滋賀県] ▶ オールサウス石山SC
- [大阪府] ▶ FCヴィトーリア  
 ▶ セレッソ大阪堺ガールズ  
 ▶ 大阪桐蔭アスリートクラブフラミンゴ  
 フットボールクラブ  
 ▶ ヴィスボさやま
- [兵庫県] ▶ 尼崎レディースU-15  
 ▶ INAC神戸レオネッサU-15  
 ▶ INAC神戸レオンチーナ  
 ▶ ヴィエントフットボールクラブとよの  
 ▶ 兵庫フットボールクラブ
- [岡山県] ▶ Jフィールド岡山フットーロ  
 ▶ 岡山湯郷 Belle U15・U18
- [徳島県] ▶ プルミエール徳島サッカークラブ  
 ▶ 徳島ラディーシャ

※順不同

## 卒校生の進路

JFAアカデミー堺は、中学校3年間のプログラムです。3年間で、様々な理由によりアカデミーでの活動の継続が困難になる場合も想定されます。その場合は個々のケースに応じて、選手本人にとって最も良い方法を、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議・検討し、判断していきます。

高校への進学、クラブの決定についても、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議し、本人にとって最も良い選択を共に行っていきます。

### ～卒校生の進路～

※順不同

- ▶ 常盤木学園高校（宮城県）
- ▶ JFAアカデミー福島（静岡県）
- ▶ 追手門学院高校（大阪府）
- ▶ 日ノ本学園高校（兵庫県）
- ▶ 聖和学園高校（宮城県）
- ▶ 大阪桐蔭高校（大阪府）
- ▶ セレッソ大阪堺レディース（大阪府）
- ▶ 岡山作陽高校（岡山県）
- ▶ 藤枝順心高校（静岡県）
- ▶ 大商学園高校（大阪府）
- ▶ 鳳凰高校（鹿児島県）

※順不同



NIKE FOOTBALL APP

もっと上手になりたい者たちへ

未来のジブンをここから掴みとれ



iOS, Android対応 / ダウンロード無料

NEYMAR JR

© 2015 NIKE All Rights Reserved. Nike Japan 0120-6453-77